



おきむら

# 興村脳神経外科クリニック通信

＜第40号＞ (毎月15日発行) H28. 4月

## ◇健康診断のお知らせ◇

当院では、健康診断を実施しております。予約制となりますので、ご希望の方は受付へお申込みください。

検査項目等詳細は、別紙“健康診断のご案内”をご覧ください。

※H28年3月1日より料金が  
変わりました

皆様いかがお過ごしですか？

興村脳神経外科クリニック通信第40号をお届けします。バックナンバーは当院のホームページからも閲覧できますのでご利用ください。

<http://www.okimura-nouge.com/>

私には三歳年上の姉がいます。記憶は定かではないのですが、幼稚園に入園する前の私は姉やその女友達とよく一緒に遊び、所謂、女の子言葉を話し、泣き虫、弱虫で親は大変心配したそうです。風が強く吹いてきただけでも「風、怖い、私」と言って泣いたという話をよく聞かされましたが、私は「信じて」いません。かなりの誇張だと「信じて」います。その後青春を男子校で過ごし所謂、男らしさを身につけたのかもしれませんが。でも未だに時折女言葉で話すことがあるようですし、怖がり、小心者は自他共に認めるところです。スタッフからは「オネエ系院長」とからかわれています。さて今月は4月(エイプリル・・・)です。この話「信じる」「信じない」は皆様の自由です。

さて今月の話題は『信じる』『信じない』です。

以前にも何度か書いていますが、動物実験などによる新しい治療法の開発を目指す基礎医学は純粋に理論的な科学です。同じ遺伝子を持つ動物を同じ環境で育てた後に別な薬を与え、その薬による効果を見極めることが可能です。ところが実際の患者さんが対象となる臨床はそういう訳にはいきません。患者さん一人一人は皆、違うからです。ですから最近、大規模臨床データと言って多くの患者さんに使用した薬の効果を調べることが重要視されています。そうは言っても大規模データも時に正反対の結果を示すことがありますし、マスコミの取り上げ方によっては患者さんにとって不利益となるデータが強調されてしまうこともあります。誤解を恐れずに言えば、臨床はある意味において『信じる』か『信じない』かだと個人的には思っています。ある宗教を『信じる』人『信じない』人がいるように医者も『信じる』『信じない』は自由です。医者の大切な役目は多くのことを勉強した中から自らが『信じる』事の出来る治療方針を患者さんにお示しすることです。言い換えれば自分が患者さんの立場になった時に『信じる』ことが出来ない方針は示すべきではありません。時には洒落たジョークも使いながらも、根源的な部分では患者さんに真面目に接し『信じ』ていただける方針を提示する、そんなクリニックをスタッフとともに目指していきたいと思っています。

## ◇当院からのお願い◇

- ◆月初めには、保険証の提示をお願いいたします。70歳以上の高齢受給者証をお持ちの方は、保険証と一緒にご提示ください。
- ◆お電話にてご予約される際は、まず診察券番号とお名前をお伝えくださいますようお願いいたします。
- ◆お引越し等で住所・電話番号が変更になった際は、お知らせください。

今後とも、クリニックならびにクリニック通信にご指導いただければ幸いです。

興村脳神経外科クリニック

